

2014年度（平成26年度）

社会福祉法人 川崎いのちの電話 役員名

理事長 金子 圭賢

理事 安藤 義雄 井田 光政 楠木 昌代 坂本 堯
 寫田 忠夫 瀧上美枝子 瀧野 修 田中 幸治
 豊田 君子 府川 宏

監事 小山 稀世 関口 賢次

評議員 安藤 義雄 内田 勝敏 片山世紀雄 粕谷 葉子
 加藤 常代 金子 顕 金子 圭賢 清宮 慶一
 近藤八千代 今野夕ネ子 齊藤 準 鈴木 清
 田出 亨 田中 房治 棚部 哲男 二宮 正人
 百元 信一 古舘 太郎 松原 成文 水野 明
 三谷 浩一 矢野 邦一 山鹿 文子 山田美和子
 渡部 邦子

I. 2014年度事業計画

電話相談の質の向上を図るとともに、24時間365日無休の電話相談サービスを市民や広域の人々に提供していくことに努める。

そのために、電話相談員の在籍数を一定以上に維持するとともに、新しい応募者の増員を図る等、各種の対策を検討していく。

2015年度には、相談員の養成研修を例年通り平日に行うと共に、週末の土日に研修ができるか、また広報手段や広報対象・時期など広く検討するなどの施策を進め、応募者の増加を図りたい。これらの目的を達成するために、2014年に「電話相談員増員対策検討委員会(仮称)」を設け、取り組む。

1. 電話相談業務

- (1) 「電話相談員増員対策検討委員会(仮称)」を設置する。
- (2) 相談員の電話相談対応の危機管理対策を充実する。
- (3) 相談員の電話相談能力を向上させる一貫として相談対応分析を充実する。
- (4) 「自死遺族ほっとライン」の電話相談時間を拡大するために必要な各種の準備を進める。

2. 研修会、講演会

- (1) 一般公開講座：相談員養成講座の一般に公開する講座には、講師に著名人を起用して受講者の増員を図る。市民を対象に「こころの健康セミナー」(10月)、「一般公開講座」(12月)を開催する。
- (2) 養成講座：2014年度の29期は水曜日を開催の基本とする(従来は木曜日開催)
- (3) 特別研修講座：3年目の研修に入る。夏に他センターとの合同合宿を実施する。
- (4) 自死遺族ほっとライン講習会：第27期・28期および未受講者対象者に実施する。
- (5) リフレッシュ研修：宿泊研修を他センターの相談員にも参加を呼びかけて実施する。
- (6) 義務スーパービジョン：今年度から「年間割り当て方式」により、相談員の予定を確保し、12月までに全相談員の受講終了を目指す。

3. チャリティーイベント

- (1) 2014年7月5日：「ダ・カーポ」コンサートを高津市民館で実施する。
- (2) 2015年3月1日：「柳家喬太郎」落語会をエポックなかはらで実施する。

4. 広報活動

- (1) 広報誌は年3回発行する。新しくしたホームページでさらに充実した情報を提供する。
- (2) 各種団体等へ出向いて講話を実施し、いのちの電話の活動を紹介するとともに募金活動にもつながるよう新たに取り組みを進める。この講話活動を円滑に実施するために内部から講師を育成する。

5. 委託事業

- (1) 2014年10月11日：川崎市との共催事業「こころの健康セミナー」を開催する。
- (2) 「自死遺族ほっとライン」の運用と利用しやすいサービス時間変更などに取り組む。

6. 助成金事業

- (1) 川崎市民活動助成金事業は3年目の最終年を迎えるため、市内で電話相談活動に携わる他の市民団体・機関などとの「電話相談関係機関連絡会(仮称)」を開催する。

7. その他

- (1) インターネット相談：川崎センターとしても運用を始められるよう準備を進める。2014年度はネットワークコーディネーター、および相談員を養成する。

Ⅱ. この1年の歩み(事業報告)

1. 電話相談事業

開局以来27年目を迎えた2013年においても、24時間受信体制を維持した。実受信数は15,877件(1日平均43.4件)、実相談数は14,009件、うち自殺志向が1,549件(11%)だった。その中で13年目になる毎月10日に実施している「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」の実相談数は556件、うち自殺志向は147件(26.4%)だった。東日本大震災(宮城、岩手、福島、茨城4県対象)の「いのちの電話震災ダイヤル」は9月まで実施し、実相談数は414件、内自殺志向は29件(7%)だった。

2. 相談員の養成研修・継続研修

相談員増員のための募集活動を、行政を通じての広報やポスターの作成、ホームページによる呼び掛けなど積極的に実施した。

電話相談員の養成研修は、27期生、28期生、29期生に対して実施した。27期の相談員は13名が認定され、9月に認定式と歓迎会を行った。

27期までの相談員に対する継続研修(対象者16グループ、9月から17グループ、年12回)については予定通り実施し、各人年1回の義務スーパービジョンも行った。また、組織内でスーパーバイザーを育成・確保するため、第6期特別研修(研修生6名)の研修を引き続き実施した。その他、相談員対象に2月、リフレッシュ研修を実施した。

3. 財務

賛助会員数 個人131件、法人13件 合計144件(前年度128件)

寄付協力数 個人97件、法人42件 合計139件(前年度183件)

事業推進委員会の企画部及び製作部の活動による益金を法人の運営資金に繰り入れた。

4. 広報・社会教育活動

広報誌「川崎いのちの電話」(78号、79号、80号)を発行した(延べ15,000部配布)。事業案内(2013年度事業計画と2012年度事業報告)を発行した(2,300部配布)。

公開講座として、川崎市・連盟と共催「こころの健康セミナー・FD自殺予防いのちの電話」葉祥明・張賢徳講演会(11月)、かわさき市民活動助成制度によるアルフォンス・デーケン講演会(7月)、鳥越俊太郎講演会(1月)、29期相談員養成研修の基礎講座全6回(2月、3月)を実施した。

チャリティー事業として、千住真理子ヴァイオリンコンサート(7月)、柳家花緑落語会(2月)も実施した。

5. 会議・委員会活動

理事会 2 回（5 月、3 月）、評議員会 2 回（5 月、3 月）開催。運営会議、相談員委員会、研修担当者会、事業推進委員会（企画部、製作部、広報部）の各会議も実施した。

6. 対外活動

- ・日本いのちの電話連盟：総会、事務局長会議、補助事業推進委員会等に参加した。
- ・いのちの電話相談員全国研修会おおさか大会（10 月、大阪市）に参加した。
- ・全国研修担当者セミナー（11 月、名古屋市）に参加した。
- ・東日本広報担当者会議（11 月、横浜市）に参加した。
- ・共催事業 JR 東日本「いのちのホットライン」（2014 年 3 月）に参加した。
- ・川崎市委託事業「自死遺族ほっとライン」に協力した。
- ・市内外の中学校、各機関に講師派遣。
- ・各種の外部研修などに参加した。
- ・各ライオンズクラブ、ロータリークラブの周年行事・例会等に参加した。

Ⅲ. 2013年度収支決算書、2014年度予算書

収支決算書及び予算書

科 目		2013予算額	2013決算額	2014予算額
収 入	経常経費補助収入	7,689,600	6,789,833	7,189,600
	川崎市補助金	5,189,600	5,189,600	5,189,600
	かわさき市民活動センター助成金	800,000	1,000,000	2,000,000
	神奈川県自殺予防事業交付金	1,700,000	600,233	0
	寄附金収入	5,300,000	5,542,837	5,500,000
	賛助会費	1,500,000	1,676,000	1,700,000
	一般寄附 (注1)	3,800,000	3,866,837	3,800,000
	育成事業収入 (注2)	2,100,000	2,445,000	2,800,000
	施設整備補助収入	880,000	1,930,000	260,000
	共同募金配分金	880,000	880,000	260,000
	神奈川県自殺予防事業交付金	0	1,050,000	0
	受取利息配当収入	7,500	12,198	5,600
	雑収入 (注3)	1,729,625	2,249,333	1,700,000
	委託収入	1,280,000	1,280,000	1,280,000
	こころの健康セミナー	560,000	560,000	560,000
	自死遺族ほっとライン	720,000	720,000	720,000
	前年度繰越金	0	24,195,833	0
	計	18,986,725	44,445,034	18,735,200
支 出	人件費支出	7,050,000	6,578,045	6,850,000
	事務費支出	7,080,725	6,064,451	7,418,200
	事業費支出	3,680,000	3,494,983	4,120,000
	固定資産取得支出 (注4)	1,176,000	2,278,500	347,000
	次年度繰越金	0	26,029,055	0
	計	18,986,725	44,445,034	18,735,200

(注1) 製作部による寄附を含みます。

(注2) 研修受講料で、事業費の養成研修費に対応しています。

(注3) 企画部イベント収入、会員会費、偲ぶ会会費です。

(注4) 共同募金配分金・県自殺予防事業交付金によるHPプログラム作成費です。

貸借対照表

資産の部		負債の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	26,029,055	流動負債	0
現金・預金	24,378,822	負債の部合計	0
未収金(県自殺予防事業交付金)	1,650,233		
固定資産	108,744,775		
基本財産特定預金	20,000,000	純資産の部	
基本財産(土地)	22,000,000	基本金	100,000,000
その他の固定資産	66,744,775	国庫補助金等特別積立金	30,860,125
(建物)	64,822,500	次期繰越活動収支差額	3,913,705
(器具及び備品)	4,955,650	純資産の部合計	134,773,830
(ソフトウェア)	2,278,500		
(減価償却累計額)	△ 5,311,875		
資産の部合計	134,773,830	負債及び純資産の部合計	134,773,830

【脚注】減価償却費の累計額： 建物(1,620,563円)、器具及び備品(3,653,337円)、ソフトウェア(37,975円)

監査報告(要旨)

会計監査の結果、資金収支報告書、事業収支報告書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の金額と一致し、法人の収支状況及び財政状況を正しく示しているものと認めます。

2014年5月21日

監事 関口 賢次 

監事 小山 穠世 